

KUNST ARZT では、宇都宮三帆の初個展を開催します。
宇都宮三帆は、「木版+インクジェットプリント」
という異質過ぎる組み合わせを通して、
見ることを考察するアーティストです。
モチーフのデジタルな文字や記号を「木版」という
アナログな版画技法に、質感や陰影を「インクジェッ
トプリント」に担わせています。
見えていたけれど、見ていない視覚世界を「見る」
対象として提示する試みです。

(KUNST ARZT 岡本光博)



経歴

1999年 茨城生まれ 兵庫育ち
2025年 京都市立芸術大学大学院
美術研究科美術専攻 (版画) 修了

展覧会

2022年 三人展「区区」アートギャラリー北野 (京都)
2023年「京都市立芸術大学三人展」ホテル THE THOUSAND KYOTO (京都)
2023年 FIG BILBAO×KCUA「魅惑のキューブ」出展 (スペイン)
2023年 個展「昨日のこと、まぼろしっばい」TOR GALLERY GALLERY 1 (兵庫)
2024年「PORTO DI STAMPA 2024」アートゾーン神楽岡 (京都)
2024年「PORTO DI STAMPA 2024」B gallery (東京)
2025年「2024年度京都市立芸術大学 作品展」京都市立芸術大学 (京都)
2025年「シン・ハンガノミリョク展」芝田町画廊 (大阪)
2025年「KAMIYAMA ART 11th Exhibition」渋谷ヒカリエ 8/CUBE (東京)

しめきり

2025

油性木版、インクジェットプリント
594×420mm

2026年4月7日 (火) -11日 (日)

12:00-18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

アーティスト・ステートメント

日常生活の中で見たことがあるはずのものを思い返そうとしてみたけれど、印象は臆げではっきりと想像することはできない。そういった、暮らしのさなかではっきりと覚えようとしなかったものが再び目の前に現れた時の既視感を、日々の幻のように感じる。

木版技法を用いそれらの些細なモチーフを作品にすることで、「見覚えはあるが完璧に思い出せるわけではない」という曖昧なイメージは彫刻刀により輪郭をなぞられ、版画特有の複製という物質性を含み、頭に思い浮かべるぼんやりとした印象に反したはっきりとした存在として目の前に現れる違和感を持たせられるのではないかと考えている。

そこで、既視感と違和感が両立するような印象を持たせるため、木版技法にインクジェットプリントを組み合わせた作品制作を行なっている。

例えば、モチーフを情報・質感の2層に分断し、文字や記号といった情報の部分を木版、質感や陰影をインクジェットプリントに担わせる。それらを支持体の上で重ねることで、豊かな陰影を表すインクジェット印刷と平面的かつ実直な印象の木版刷りが紙の上でレイヤー構造を作り出す。

一見違和感なく見えたものがよく見れば異なる質感の平面的なレイヤーの組み合わせであることがわかったとき、普段見慣れたもの、体験と改めて対峙し、見つめ直すことができるような表現を目指している。



忘れまい
2024
油性木版、インクジェットプリント、竹和紙
1100×1118 mm



別のことを考える
2025
油性木版、インクジェットプリント、竹和紙
1100×1118 mm



来た道をおぼえていない
2025
油性木版、インクジェットプリント、竹和紙
1100×1118 mm



開封済
2025
油性木版、インクジェットプリント、竹和紙
1167×841 mm